



ブララン山からセント・アン湾を臨む眺望。麓からゆっくり登って約1時間くらい。



空を覆うココ・デ・メールの森を行く



ココ・デ・メールの雄株の花。ゲコ（トカゲ）が受粉に一役買う。

「フォンド・フェルディナンド保護区」

ブララン島の高速船の波止場があるセント・アン湾から車で10分。フォンド・フェルディナンド保護区は双子ヤシが自生する自然保護区として2012年から一般開放されています。東京ドーム2.5個分相当の広大な敷地には世界最大の種子「ココ・デ・メール（双子ヤシ）」の雌株が860本、樹高30mにもなるココ・デ・メールの森はエデンの園を思わせる神秘的な雰囲気を感じさせます。標高367mのブララン山からはセント・アン湾を臨み絶景が見渡せます。世界遺産に登録されているヴァレ・ド・メ自然保護区よりも眺望が良く保護区内の整備も行き届いていることから最近ではフォンド・フェルディナンド保護区の方が人気があります。入場料を支払うと現地ガイドが保護区内を案内してくれる。

海との交易を通じてココ・デ・メールは珍品として高値で取引されました。南中国では強壮剤として、インドではアーユルヴェエダ薬、ヨーロッパでは殻の硬い部分を楽器や食器として利用していた。また、大航海時代の船乗り達の間ではコレクションとして収集された。

1768年フランス人探検家ジョゼフ・マリオンによってココ・デ・メールの自生が発見され「海の椰子」の謎が解き明かされた。

ココ・デ・メールは海の椰子のフランス語です。

海との交易を通じてココ・デ・メールは珍品として高値で取引されました。南中国では強壮剤として、インドではアーユルヴェエダ薬、ヨーロッパでは殻の硬い部分を楽器や食器として利用していた。また、大航海時代の船乗り達の間ではコレクションとして収集された。

1768年フランス人探検家ジョゼフ・マリオンによってココ・デ・メールの自生が発見され「海の椰子」の謎が解き明かされた。

ココ・デ・メールは海の椰子のフランス語です。

人々はこの実は海の底に生える木の実はと信じ「海の椰子」ココ・デ・メールと呼ばれるようになります。ココ・デ・メールは海の椰子のフランス語です。

重い種子の為、海に落ちると沈んでしまうので他の島に繁殖することができないのです。海に落ちた種子の中身が腐って中が空洞になると海面へ浮かび、潮流に乗って東のモルディブまで流れていったようです。

モルディブでは流れ着いたココ・デ・メールが不思議な霊力のある物として珍重され拾った者は王に献上しなければなりません。隠し持ったり商人に売ったりすると死刑だったそうです。

人々はこの実は海の底に生える木の実はと信じ「海の椰子」ココ・デ・メールと呼ばれるようになります。ココ・デ・メールは海の椰子のフランス語です。



インド洋のエデンの島々

[セイシェル・プララン島]

コロンボ経由、乗り継ぎ含め約10時間



右) 株になるココ・デ・メールの実。実の中に世界最大の種子がある。左) ココ・デ・メールの種子。神聖ローマ皇帝ルドルフ2世はココ・デ・メールを4千フロリン金貨で手に入れたという記録もある。

海の椰子の伝説

ココ・デ・メール

セイシエルのシンボルともいえる面白い形の椰子の実「ココ・デ・メール」はセイシエルでもブララン島とその隣のキュリーズ島でのみ自生し世界自然遺産に登録されています。

この椰子の実は大きさ50cm、重さ30KGにもなり世界最大の種子とされています。この実が成熟するまでには7年かかり、さらに発芽までは2年かかります。